



岐阜大学医学部ラグビー部新聞

我夢者羅

特別号

悲願の東海医歯薬優勝!!

過去3年の雪辱晴らす

VS 浜松医科大学 △7-7

3年連続決勝に進出しながらも、いずれも準優勝に終わり苦渋の思いをしてきた岐阜大学。予選プールを苦しみながらも全勝で突破し、決勝の地で昨年度決勝で敗北を喫した因縁の相手、浜松医科大学(以下..浜医)と再び戦うこととなった。

浜医は3人のキッカーによる多彩なキックを軸にしたチームである。一方岐大は粘り強いディフェンスが持ち味であり、ロングキックで敵陣に入り、ディフェンスで押し込むというゲームプランだ。試合前から「キックが飛び交うロースコアのゲームになる」と山崎主将は口にしていった。

試合開始直後、戦前の予想通りに多くのキックが飛び交う試合となった。岐大はウィングとハーフのポジションチェンジの瞬間やオープンキックを狙われ、キックを処理が不安定となり、ノックオン等でターンオーバーを数回許してしまった。しかし、ここで簡単にトライを許さないのが現在の岐大のディフェンスである。キックで再三押し込まれながらも、FWの果敢なタックルによるディフェンスゲインや展開されても粘り強くタックルするBKによって、前半一度も22m内へ侵入させなかった。アタックではFW・BKが連携したシェイプアタックで二回22m内に侵入したが、後一步及ばず、スコアレスドローで前半を折り返した。

後半、浜医のキックの勢が増し、更に自陣へと押し込まれるようになった。それでも相手のノックオンや粘り強いタックルで耐え続けていたが、後半12分、ついに均衡を崩れる。集中が途切れた瞬間、ラック際に出来たギャップを相手FWに突破され7-0とリードされてしまう。その後もお互いの陣地を行き来しながら、一進一退の攻防を繰り返した。しかし、後半35分敵陣でペナルティを取ると、

そこからアタックを開始。22m内に侵入するとFWが執念のピックでゲインを繰り返し、そのままトライ。強豪のような力強いアタックで同点に追いついた。引き分けて終われない両校は、その後も果敢に攻め続けるが、どちらもトライには及ばず、最後はノックオンでノーサイド。大会規定に則り、両校優勝となった。



(優勝後の集合写真)

プールB	岐阜	藤田	金沢	富山
岐阜大学		29 - 0	26 - 8	17 - 10
藤田医科大学	0 - 29		8 - 19	26 - 12
金沢大学	8 - 26	19 - 8		7 - 29
富山大学	10 - 17	12 - 26	29 - 7	

(予選プールの結果)

予選プールの結果は右下の表を参考にしていたいただきたい。どの試合も一筋縄ではいかず、全学年ほぼ全員出場し、まさにチーム一丸となって勝ち取った優勝だと言える。決勝には5名もの2年生が出場しており、今後の進化がまだまだ楽しみだ。今年は両校優勝という結果に終わったが、来年からの目標は医歯薬の単独優勝となる。これからも岐大ラグビー部の活躍に是非注目していただきたい。

(今大会で引退される館先生と山崎主将)



【主将からのコメント】
これまで準優勝だったので、優勝できて嬉しく思います。しかし、内容には満足していないので、西医体に向けて修正していきたいです。これからも応援よろしくお願います。

最後になりますが、お足元の悪い中、遠方から会場まで足を運んで下さったOB・OGの皆様、また、いつも応援して下さいのOB・OGの皆様ありがとうございます。より一層頑張りますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。